

BBS会会長賞

堺市立 浜寺中学校 二年

小田 舞衣

つながりを大切に、犯罪がおこらない明るい未来へ

私の祖父はほぼ毎朝、近くの公園でウォーキングをしています。私も春休みや夏休みには、祖父に連れて行ってもらうことがあります。私は祖父と一緒に公園を歩くことが好きです。公園に行くと、祖父の顔見知りの仲間の人たちが「おはようさん。」と気さくにあいさつをしてくれて、私はいつもほっこりとした気持ちになります。祖父たちは、最近暑いことや、体調に気をつけていることなどの何げない日常の会話をしていました。私はそんな祖父たちを見て考えたことがあります。それは、人とのつながりをもつことで、悩んでいることや不安に感じていることがサツとふきとび、犯罪がおこらない、みんなが笑顔でいられる社会になるのではないかということでした。私は不安なことがあるときに、家族や友達と少し会話をするだけでだいぶ気が楽になり、「あれほど考えていたのは何でだろう。」と疑問に思うこともあるくらいです。自分の話をしたり、または自分以外の人の話を聞いたりして気がスツキリした経験がある人もたくさんいるのではないのでしょうか。だれかにアドバイスをもらってはじめて分かったこともあるかも

しれません。人ととのコミュニケーションを交わしていくと、自分では気がつかなかった新しい視点で物事を見ることができるようになっていくものだと感じました。祖父たちが自然と集まっているような気軽に話ができる場所をつくるのが、悩み事がある人の支えになるのではないかと私は考えました。つまり、犯罪の種をつくらないことにつながると思っています。私がニュース番組などの情報機関で見た犯罪をおかした人があつて、そのことを解決できずに犯罪をおかしてしまったという人も多くいました。その人たちは、もしかしたら、だれにも相談できずに一人がかかえこんでがまんできなかったのかもしれない。もし話ができる場所があつたなら、少しでも心に余裕が生まれて犯罪をおかさなくてもすんだ人だっただけではないのでしょうか。それなら一刻も早く、自分の話ができる場をつくり、私たちがその人の心によりそってあげるべきだと思います。その場にいる人全員が一人一人のできることをして、だれもどりのこ

されないように考えていくことができる未来へと、社会が変わっていけるようになってほしいです。そのために私たちは、今できることから始めていく必要があると思いました。まず分かっておかないといけないのは、犯罪はだれも幸せにならないということだと思います。犯罪はいろいろなケースがあつて、犯罪をおかすしか生きていく道がない場合や、自分の気晴らしにするという場合などがあつて、どれも全てさんこくで悲しいです。犯罪をおかすというのは、必ず被害者がつきものです。その人やその周りの人々をどれほど苦しめて悲しませたか、想像してもしきれないほどの感情が多くの人におそいかかってしまうのです。そのことを分かった上で、犯罪がおきないための、社会を明るくするための方法を、私たちが考えて実行していき、未来まで受けついでいくことが大切なのだと思います。

